



須田っ子 第13号

学校教育目標「進んで心やからだをすこやかにする子」SA・SU・GA・DA

防災教育

校長

「同じ内容の学習や避難訓練をしても、災害時にはその場の状況によって一人一人の被害状況（結果）が異なることがある。」

避難訓練では、基本的な動きを習得する場面と今までとは違った場面を設定し、それにどのように対応するのかを確認する場面が必要だと考えています。

9月7日(水)に、不審者侵入時の避難訓練を行いました。

・不審者から距離をとる ・隣のクラスに危険を知らせる ・バリケードをはる

今回は、上の3つのことをメインに訓練を実施しました。

普段は経験しない危機的な場面に遭遇すると、「落ち着いて行動できる人=10~15%」、「我を失って泣き叫ぶ人=15%以下」、「凍りつき症候群=70~75%」だそうです。

正常化の偏見：危険が迫っている事実を認めようとしない→認知と判断が遅れる→パニックとなり、常識的な判断や行動するまでに時間がかかる（又は行動できない）ようです。

マンネリ化した避難訓練を見直して、「受動的→能動的」〈先生が指示を出さず、子供たち自らが動く場面を設定する〉に子供たちが行動できるようにしておくことが大切です。

そこで、体育館に避難した後で、「地震だ」と、子供たちに言いました。

さて、何人の子が身を守る行動をしたのでしょうか？

今回は、全員その場から動かずにいました。地震の避難訓練だったら、もう少し多くの子が自ら動いたかもしれません。

いろいろな場面で、子供たちが能動的に動けるように、避難訓練もさらに工夫して実施しなければならないと感じました。

集団の中で抜き打ち訓練を実施してみたという研修会での資料です。○は、自分の判断で行動できていた小学生です。大人でも、とっさには行動できないことが分かります。



- ・バリケードを作るのは、少しでも侵入に時間が掛かるようにするため
- ・体育館に集まった後で、窓を閉めるのは、物を投げ入れられないようにするため
- ・真ん中に集まって小さくなるのは、ガラスなどを割られても破片でけがをしないようにするため
- ・声を出せば、そこにいることを侵入者に知らせることになるので、声は出さずに避難したり、教室にいたりするなどの指導をしました。

がんばりタイムⅡ期を実施しています

自分のめあての達成に向けて練習に取り組ませることを通して、走力や持久力を向上させたり、粘り強く運動に取り組む態度を育てたり、ひまわり班で教え合いながら活動したりすることを目的に、がんばりタイムⅡ期を9月5日（月）から始めました。マラソン大会の準備と150周年式典でのダンスを練習します。



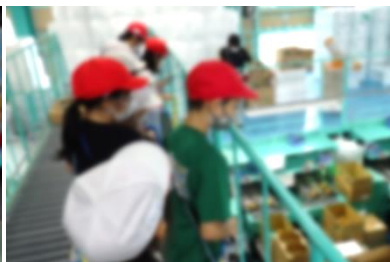
9/6（火）全学年 ダンス講座

中澤利彦様をメイン講師に、本多柊芽様、村山なな様、村山ゆな様の4人の方々からダンス講座を行っていただきました。子供たちは、夏休み中の練習などで、大体踊れるようになっていたので、細かい動きについて教えていただきました。



2年生が町探検に出掛けました

2年生は9月8日（木）に選果場の見学をしました。梨が出荷されるまでの様子を見せていただきました。



絵本を寄付いただきました

加茂市出身で田上町に住む藤田郁美様より、絵本「心に寄り添うおじぞうさん」を寄付していただきました。いずれ図書室で借りられるようにしたいと思いますが、しばらくは、校長室前に展示し、全校の子供たちが見ることができるようになりたいと思います。

